

29 週 第一戒

質問 45. 第一戒は、何ですか。

答え I 第一戒は「あなたには、わたしのほかに ほかの神々があつてはならない。」です。

質問 46. 第一戒が、求めるのは何ですか。

答え I 第一戒が求めるのは 神が、唯一まことの神として知り、認め、その方を礼拝し、栄光を帰しなさいです。

質問 47. 第一戒が、禁ずるのは何ですか。

答え I 第一戒が、禁じているのは、まことの神が私たちの神であることを否定すること、その方を礼拝もせず、栄光を帰さないことです。また、神のみに捧げるべき礼拝と栄光を、ほかの人間や、ほか（偶像）に帰することを禁じています。

質問 48. 第一戒の中に、「わたしのほかに」ということばが、私たちに特に教えているのは何ですか。

答え I 第一戒の中に「わたしのほかに」ということばが、私たちに特別に教えているのは、すべてを見ておられる神が、私たちがほかの神を拝む、罪を注目しながら、とても不愉快にしておられるということです。

解説

信仰において、一番、重要な義務

信仰において、一番重要な義務は、神を礼拝することです。この世にあって、神のいない者は望みのない者です（エペソ 2:12）。

神を知る知識があれば、その人は必ず、神を探すようになり、神を礼拝しようとし、神を優先順位に置くようになっていきます（ヨハネ 4:22）。そして、神でない偶像を拝むことが、どれほど恐ろしい罪なのかを悟るようになります。それで、自分が仕えていた偶像を捨て、神に立ち返るようになるのです（Iテサロニケ 1:9）。

第一戒が、求めること

第一戒が求めることは、何より神を知ることと、神を認めること、そして、神を礼拝し栄光を帰することです。神を知る知識を持つようになれば、神が主(Lord)だということを悟るようになります（I列王 18:39、ホセア 13:4）。その知識は、神は生きておられ、この世のすべての万物を主管なさる方であることを悟るようになります。そして神を、私たちの唯一の神として認めるようになるのです（II列王 19:15）。勿論、このように神を知る知識は、必ず増加されるべきです。そしてさらに、主を深く愛し、仕えるようになるのです（コロサイ 1:10）。

神を主と認めるようになれば、必ず、主を礼拝し、栄光を帰そうとする霊的熱望が大きく起こります（Iコリント 10:31）。自分の生活の中で神を最高の位置に置くことで神に栄光を帰し、神を黙想し楽しみながら、神を喜ばせようとし（マラキ 3:16、詩 63:6）。

神を何よりまことに愛し、信頼し、主の御名を賛美し（詩 39:2）、主のみこと

ばにいつも注意を払い、常に生活の中で主を記憶するようになります（伝道書 12:1）。そして、神との交わりの生活を持つようになります。目は主を仰ぎ見（詩 25:15）、いつも主にあって喜び（ピリピ 4:4）、主は聖なる方だから、聖なる生き方をしようと努力するようになります。

神を主として認めた人は、対話と行動にあっても、主と同行する生活を生きようとします（創 5:24）。その人は、主の御名を呼びながら神に感謝し（ピリピ 4:4）、神に仕えることに熱心を抱き（ロマ 12:11）、徹底して服従するようになります（エレミヤ 7:23、ヤコブ 4:7）。神に敵対する生活を生きないために、霊的に注意を払いながら（Iヨハネ 3:22、エレミヤ 31:18）、何事にも謙遜に、神と同行する生活を生きるようになります（ミカ 6:8）。

第一戒が、禁じていること

第一戒は、神を礼拝せずに、当然、帰すべき栄光を神に帰さないことを禁じています。神がおられないということは、大きな罪であり、そのように話す人間は、愚か者です（詩 14:1）。また神の公義を否定し、神は見ていないと考え、自分の思うままに生き、悪行を行うことも神を無視する罪です。このような者たちに、神は報復すると語っておられます（IIテサロニケ 1:8）。

神を冒瀆することと偶像崇拝をすることも罪です。偶像を崇拝するのは悪魔に仕えることです（Iコリント 10:20）。そして神を信頼せず、その心に、悪い心と不信仰を持つことも罪です（ヘブル 3:12）。口では神を賛美しながら、その心に神がいない者は、神を礼拝しない者です（マタイ 15:8、イザヤ 29:13）。

更に、神に対する知識がなくて、自分の想像力や欲望を成し遂げるために、内面に自ら作った神を拝むこと、これもやはり、第一戒を破ることです（Iヨハネ 2:15）。

「わたしのほかに」と仰せられた理由

「わたしのほかに」ということばは、神はすべてのことを見ておられ、それについて注目なさっておられるという意味です（ヘブル 4:13）。そして神を礼拝もせず、仕えないことについて、神はとても不愉快にされておられるという意味です。

神は、私たちの立つのも座るのもすべてをご覧になっています（139:2）。勿論神は、私たちが心から神を礼拝しているのかも見ておられます。偶像に仕え、ほかの神に仕えることは、神の栄光を奪って行くことなので、神は非常に不愉快にされます（イザヤ 42:8）。このような罪は、神の権威に即刻に挑戦することです。神は、この罪などを、この地においても、来る世においても審判なさると語っています（申 29:24-29、黙 21:8）。